

(海外) 国内) 出張報告書 (学生用)

2014 年 6 月 23 日提出

氏名	大菅 辰幸
所属	獣医内科学教室
学年	博士課程 3 年
出張先	Gaylord Opryland Resort and Convention Center (アメリカ・テネシー州・ナッシュビル)
出張期間	6 月 3 日 - 6 月 9 日
目的	アメリカ獣医内科学会 2014 での研究の口頭発表

活動内容 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

私はこれまで犬心疾患における新たなリスク因子の特定を目指し研究を行ってきた。今回、近年ヒト心疾患で注目されているリスク因子であるビタミン D 欠乏の犬心疾患での意義を検討した研究「Vitamin D status and disease progression in canine chronic valvular heart disease」についての口頭発表をアメリカ獣医学会 (American College of Veterinary Internal Medicine : ACVIM) Forum 2014 にて行った。

ACVIM Forum は、臨床獣医内科学領域において最も権威のある国際学会のひとつであり、毎年 1 回アメリカの 1 都市で開催されており、今年はテネシー州ナッシュビルの Gaylord Opryland Resort and Convention Center で 6 月 4 日～6 月 7 日の 4 日間にわたって開催された。セッションは一般内科学 (小動物)、心臓病学、神経病学、腫瘍学、内科学 (馬)、内科学 (産業動物)、に分かれており、セッションごとに研究報告、講演、Interactive lecture が行われた。

開催地となったテネシー州ナッシュビルはアメリカの南部に位置し、カントリーミュージックの中心地として有名であり、本学会期間中も市内ではミュージックフェスティバルが開催されていた。学会会場である Gaylord Opryland Resort and Convention Center もカントリーミュージックをテーマとしたリゾートである (図 1-3)。

学会 1 日目には心臓病学セッションにおいて口頭発表を行った (図 4, 5)。内容の概略としては、犬において最も多い心疾患である僧帽弁閉鎖不全症においてビタミン D 栄養状態が心臓のリモデリングと関連するというものであった。発表前から発音など十分に練習を行って発表に臨んだものの、初めての国際学会での口頭発表であるということや世界の臨床心臓病学をリードする臨床家・研究者が聴衆であることから発表前には非常に緊張した。しかしながら、発表中は聴衆の雰囲気やリアクションが非

常に温かいものであったこともあり無事に終えることができた。発表後に盛大な拍手が上がったことは国内学会ではあまり経験がないものであり、日本と欧米の文化の違いを大きく感じる事となった。

学会 2 日目以降は研究発表や講演を聴講した。2 日目に聴講したもののの中で最も印象深かったものは「Cardiorenal syndrome: Cardiologist vs. Nephrologist」である。心疾患の治療と腎疾患の治療は相反するものが多く、一方の治療を行うと一方が悪化するというジレンマが医学、獣医学ともに存在しており、これを **Cardiorenal syndrome** と呼んでいる。本講演はこのジレンマを解決するために医学領域で現在研究されている治療アプローチを紹介したものであり、この講演を聴講して、今後の獣医心臓病学において **Cardiorenal syndrome** が主要な研究対象となる可能性を強く感じた。

学会 3 日目において最も興味深かった講演は「**Aldosterone Breakthrough in dogs: Experience with ACE-inhibitor in a model of RAAS activation**」である。心疾患の標準的な治療アプローチは ACE 阻害剤による **Renin-Angiotensin-Aldosterone** 系 (**RAAS**) の抑制であるが、ACE 阻害剤を用いてもその抑制状態が破綻する現象が近年の医学領域で発見されており、この現象は **Aldosterone breakthrough** と呼ばれている。この現象が獣医心臓病学領域においても発生していることを初めて報告したのが本発表である。この研究結果は、**RAAS** の抑制についての現在のアプローチに大きな変化をもたらす可能性を持っており、非常に意義の大きな研究であると思った。

本学会の研究発表や講演は新奇性が高いものや研究デザインが堅固なものが多く、国内学会のものとは明らかにレベルが異なるものであった。そのため学会終了後には、海外で研究活動を行うことに対する興味や海外で研究経験を積むことの必要性を改めて強く感じる事となった。

最後に、本出張では臨床獣医学において最も権威のある国際学会で口頭発表することができ、何ものにも代えがたい貴重な経験を得ることができた。この経験を今後の活動に活かし、将来国際舞台で活躍できるよう日々研鑽を積んでいきたいと思う。



図 1 学会会場外観



図 2 学会会場内のリゾート施設



図 3 学会会場受付

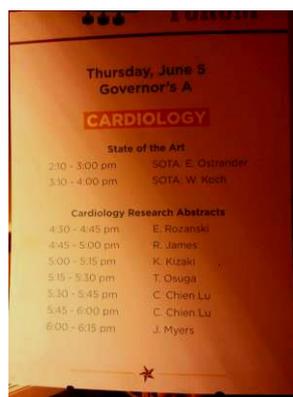


図 4 口頭発表を行った心臓病学セッション



図 5 口頭発表中の筆者

指導教員確認欄	所属・職・氏名： 獣医内科学教室 教授 滝口 満喜 印
---------	--------------------------------

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp